

Regarding the Degree of Differentiation in Esophageal Squamous Cell Carcinoma and Micrometastasis to the Lymph Nodes

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2019-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 朝倉, 孝延 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002351

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2129 号

Regarding the Degree of Differentiation in Esophageal Squamous Cell Carcinoma and
Micrometastasis to the Lymph Nodes

(食道扁平上皮癌の分化度と微小リンパ節転移について)

朝倉 孝延 (あさくら たかのぶ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

食道扁平上皮癌の診断で3領域リンパ節郭清を伴う食道根治切除術を施行した症例について分化度によるリンパ節微小転移の頻度、予後の関係について検討することを目的とした。

手術で摘出したリンパ節を通常の HE 染色による病理組織学的検査に加えて、HE 染色による病理組織学的検査に使用した切片に隣接する $3\mu\text{m}$ の 5 切片を作成し、5 切片の内中央 3 切片を抗サイトケラチン抗体 (CK13) 染色を用いて免疫染色施行し、微小転移の検索を行った。

2000 年に順天堂大学医学部附属順天堂医院食道・胃外科で根治的食道切除を施行された食道癌 80 症例の内、術前化学療法や術前化学放射線治療を行っておらず、組織型が分化型扁平上皮癌 (高分化型もしくは中分化型) で系統的 3 領域リンパ節郭清が行われ、従来の病理組織学的検査でリンパ節転移が 10 個以上の非常に進行した食道癌を除き、予後追跡可能であった本研究に同意を得られた 25 症例を対象とした。病理組織学的分化度は高分化型が 14 例 (56.0%)、中分化型が 11 例 (44.0%) であった。郭清されたリンパ節総数は 2915 個、平均 116.6 個/例で HE 染色による病理組織学的検討では 17 症例 70 個のリンパ節に転移を認めた。CK13 による免疫染色で新たに発見された微小転移は HE 染色で転移なしとされた 1 症例の 1 個と既に転移とされた 9 症例の 16 個であった。

微小転移と食道癌組織型の関連について、微小転移陽性症例は高分化型が 8 例 (80.0%)、中分化型が 2 例 (20.0%) に対して、微小転移陰性例では高分化型が 6 例 (40.0%)、中分化型が 9 例 (60.0%) と高分化型症例で有意に微小転移が多かった ($p=0.048$)。微小転移の有無で生存曲線を Kaplan Meier 法で比較すると微小転移陽性症例で有意に予後不良であった ($p=0.002$)。分化度により生存曲線を Kaplan Meier 法で比較したところ高分化型症例で有意に予後不良であった ($p=0.031$)。

また今回検討した症例で微小転移リンパ節が頸部から腹部の広範囲にわたっており食道癌手術におけるリンパ節郭清は分化度に関わらず 3 領域行うことが望ましいと考えられた。

本研究では胸部食道癌の高分化型・中分化型の症例を対象としたが、今後、低分化型や頸部食道癌、腹部食道癌の症例なども加えて、分化度による着床・増殖の相違点の検討を行っていく必要があると考えられた。